

観^{みて}食^{たべ}歩^{あるま}記

関西^{かんさい}へ行こう

今回の取材段取りをしっかりとげんた編集長、直前になって行けなくなり、急きょ、代打の隼人^{はやと}さんに登場願いました。関西^{かんさい}とは関西国際空港の略称、愛称です。昨年の流行語にも選ばれてましたね。世界初の海上空港、日本初の本格的24時間空港として話題になりました。(なで)

今回、編集長の拠^{たもと}り所ない事情により、代わって隼人がレポートします。(隼人)

<大阪から関西へいくには・・・>

関西へは自動車、電車の他、海上空港であることから船でのアクセスも可能です。今回は往路に南海電鉄の関西国際空港特急「ラピート」を、復路にJR西日本の特急「はるか」を利用してみました。

神戸っ子の私は大阪に勤めていながら、難波へは数えるほどしか行ったことがなく、全てが新鮮な今回の取材。言うまでもなく、わくわくしっぱなしでした。さて、難波ロケット広場前に11時に待ち合わせ、南海電鉄の広報課松本さん、営業課細井課長さんと坂田主任さんのご案内により南海電鉄なんば駅、ラピート及び関西国際空港駅を観て回りました。

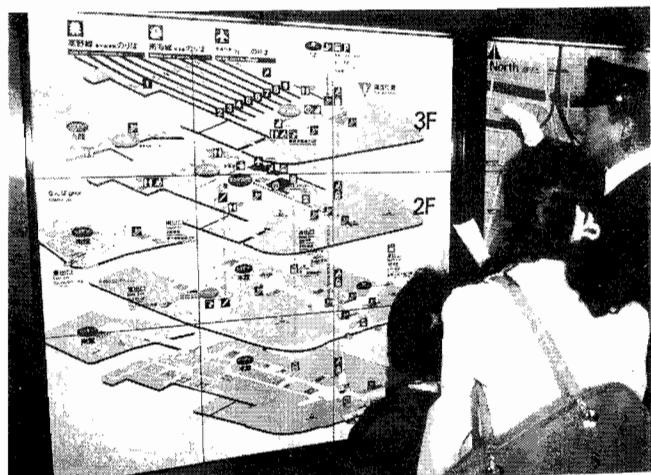
なんば駅は関西方面だけでなく、高野山方面や和歌山方面への拠点となっているので、ちょっと電車を乗り間違えても、さあ大変!とんでもない所へ行ってしまう可能性大。そこで、なんば駅では表示看板の読みやすさだけでなく、路線を色によって区別し、さらに絵を組み合わせることによって目的の電車に確実に乗れるよう工夫されています。(なで)

なんば駅は四層構造になっています。エレベータは2カ所ありますが、サウスタワーホテルに後付けされたものは、場所が少し分かりにくく、注意が必要でしょう。地下の“北口”を出ると“大阪市営地下鉄御堂筋線難波駅”へのエレベータが

あります。

2階はなんば駅の中央出入口でCAT (City Air Terminalの略)で荷物を預ければ、車いすでの一人旅も可能だと思います。車いすトイレは、この階と1Fに設置されています。

車いすで利用する場合は、エレベータやその他の面で3階を利用するのが最も良いでしょう。券売機は貨幣の投入口が高い位置にある従来型のものなので支障をきたすように思いました。これは今後随時、関西駅に設置したのと同様、貨幣投入口が低い型の券売機に換えていくそうです。(これなら車いすでも大丈夫。)(隼人)



<<なんば駅は四層構造>>

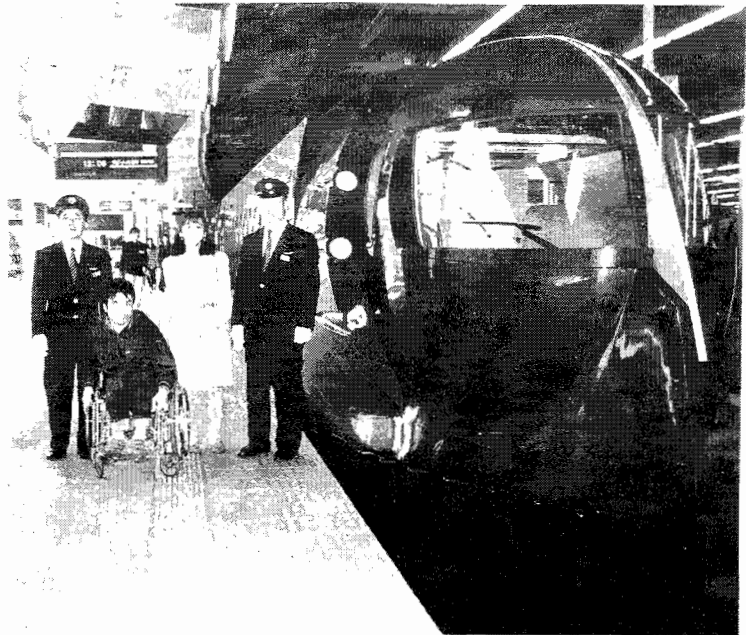
<ラピートって知ってる？>

関西ではかなりポピュラーになってきた「ラピート」。この名前は一般公募（32000通！）の中から選ばれました。ドイツ語で「速い」という意味だそうです。

まず、目をひくのが一風変わった車体の形。鉄人28号を思わせる車両の“顔”に大きな円形の窓。ラピートはモチーフがだ円というだけあって、窓だけじゃなく、車両も車両全体を上から見てもだ円になっているとは、徹底してますね～。これまでのいわゆる箱型車両とは全然違った感じで、ちょっとカルチャーショックを受けました。顔の鼻にあたる部分がすーっとのびてて、欧米人の鼻を想像してしまった。。。

空港線開業以来、ラピートの乗車率は平均80%以上というんですから、人気のほどが伺えますね。（なで）

ななば駅3階のラピートの改札口は、通常のものより広く作られていて、車いすも楽に通れます。ラピートの発着ホームにもエレベーターがありますが、これは通常使用されておらず、使用する場合は前もって役務室へ連絡を取る必要があります（要切符）。（隼人）



<<案内して下さった細井さん(左端)と坂田さん(右端)>>

空港手前には3.7kmの橋が架かっていますが、風速23m以上の強風が吹くとさすがのラピートも橋を渡ることはできません。とくに台風の時期に旅行される方は要注意！です。

書き切れない特徴はまだまだいっぱいあるので、みなさんが今度、行かれるときはご自身で新たな快適さ、便利さを見つけてネ。（なで）

ラピートの車いす用車両は、1列車に1両連結されています。乗降口も車いすの乗り降りに支障ないように広く設計されていました。車内の車いす専用のスペースは、二人掛けシート一脚分確保されていました。これだけのスペースならば、電動車いすであっても十分なスペースだと思います。しかも、航空機用のコンパクトな折り畳み式の車いすが常備されているので、通路の移動もこの車いすに乗り換えるとスムーズに行えます（介護者が必要ですが）。車両に設置されている車いすトイレを利用する際にもこの車いすが便利でしょう。（隼人）



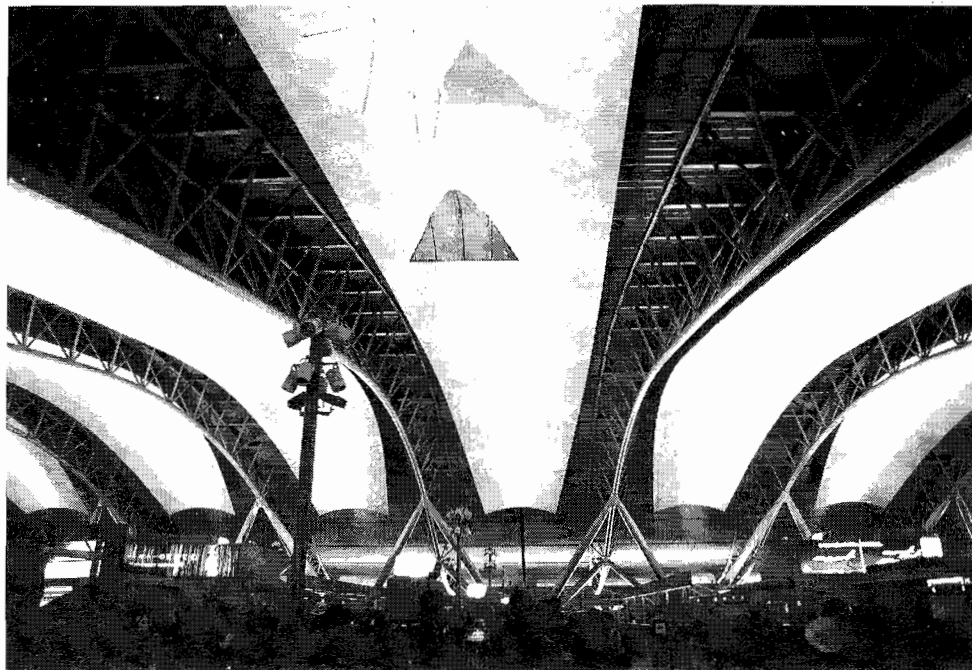
<<ラピートの車いす用スペース>>

<鉄人28号の中身は???>

1車両レギュラーシートで定員48名。全席指定で非常にゆったり、広々とした感じですが。手荷物入れも従来の網棚ではなく、飛行機の手荷物入れみたいで一瞬飛行機に乗っているのかと勘違いしそう。。。車いすのスペースでも、シートを反対向けることにより、向い合わせでお話できるようにもなっていました。（電動車いす4人組というのは無理かもしれないけど・・・）



車椅子でも使えるネ



《4階国際線出発ロビー天幕》

＜わくわくドキドキ＞

まず、室内の変った形に惹かれ、ゆらゆらと風に揺れる天井のオブジェを見るとこれから飛行機で旅行するんだっ！というわくわくした気持ちをさらに倍増させてくれそう。

空港を設計したイタリア人建築家、レンゾ・ピアノ氏は大空に飛び立つ鳥をイメージしてデザインされたとか。1階には本物の木々が植えられていてほっとした気分になります。

関空駅を中心にして、空港とは反対側に建設中のホテルやレストラン街などなど来年夏のオープン予定だそうです。楽しみ、楽しみ。(なで)

関空駅にはホームから改札までエレベーターがあり、ラピートの停車位置も車いす用の車両がエレベーターの近くになるようになっていました。エレベーターは電動車いすが2台入る広さです。3階の改札には貨幣の投入口が低い“券売機”がありました。

空港ビルの内部は、各所にエレベーターが設けられ、垂直移動と水平移動であらゆる場所への移動が可能ですし、段差もほとんどありませんでした。また、随所に車いす用の公衆電話も見受けられました。しかし、航空会社、銀行やその他のカウンターは車いすでは使用できないほど高かったのが残念でした。また、空港内には車いすトイレの表示がありませんでした。“南海”と“JR”にはともに一般用のトイレの中にありました。これ

ももう少しはっきりと表示して欲しいと思いました。

点字ブロックに関しても一応敷設されているのですが、床面と同系色で弱視の方には分かりづらいと思います。ビル内の色調を重視したものだと思いますが、もう少し視覚弱者に配慮があっても良かったのではないかと思います。また4階のリムジンバスの降車場からビル内への点字ブロックも色彩的には分かりにくく、数カ所ある出入口の中央の1カ所にしか誘導されていないことも残念でした。(隼人)

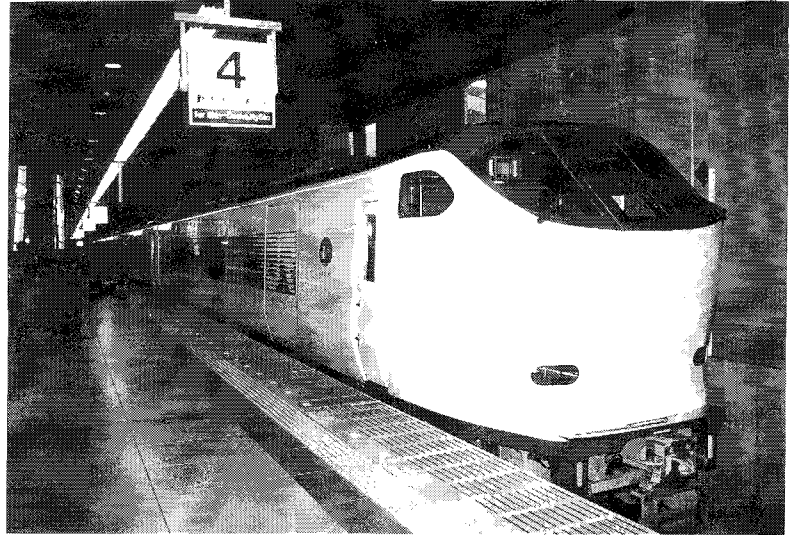
＜買い物に走る、走る＞

いつものごとく、食事をしようと目的地を探すと、、、あつた！大丸百貨店や阪神百貨店などなどのショッピングゾーン。(目的地が違うやろ～!) そうです。でも、ちょっとした手土産を買いたいな～と思っていた私は思わず、ラッキー！と言って走り回っていたのでした。

で、本題のランチ。土曜日の昼どきとあって、どこも超満員状態でした。その中でも比較的待ち時間の少なそうな“ロイヤル・カフェテリア”へ入ってみました。カフェテリア形式で食べたい物(洋食メニューだった)をトレーに取っていき、一番最後に精算し、そのまま自分で席まで運ぶという、完全セルフサービスの店でした。で

も、大丈夫！障害者の人のためにはちゃんと料理を運んでくれましたヨ。味はまあまあ、値段はちょっと高めかな～って気がした。でも、ウワサによると店舗の賃貸料が非常に高いらしいので、採算合わせるのも大変とか。。。 (なで)

いよいよ本日のメインイベント。ローストビーフにサラダにパン、そしてコーヒー。味は、まあまあいけたけど、なんであのサラダが680円もするんや。コッペパンが80円ってやっぱり高いよねえ。締めて2570円、こんな贅沢な昼食は何年ぶりかな。関空見物はやっぱり弁当を持っていくのが正解。(隼人)



<<JR西日本の「はるか」>>

<関西を一望できるデートスポット>

4Fから空港ビルの外に出て、右へ右へと行けるところまで行っちゃえ！警備員のおじさんがちょっと邪魔かな？とも思ったけど、最近のカップルは周りの人達も目に入らないくらいお熱いから大丈夫？！ここからは大阪湾、神戸、明石、淡路島の方まで見渡せるちょっとした穴場です。ここから道路と平行に立ち、大阪の方を見ると正面に高くそびえ立つツインビルが見えます。隼人さんは「絶対OBPだ！」と言い、一方、KIJIさんは「OBPにはもっといっぱいビルがあるから違う！」と言った。あのツインビルは一体どこだったのでしょ？？分かった人は私にそっと教えてくださいネ！

空港ビル自体が邪魔(!)で飛行機を間近で見ることができないのがちょっと残念ですが、ターミナルビルから約1.7km離れた管理棟には展望台もあり、こちらデートスポットにお薦めです。(なで)

<“はるか”で彼方の神戸へ帰る>

空港から見た神戸は本当に近かったのに、電車だと大阪湾をぐるっと大回りして遠い。。

帰りはJR西日本の“はるか”で大阪に帰ってきました。“はるか”はラピートとは対照的で四角い電車の四角をさらに強調してる感じで、全体にシンプルなデザインになっていました。

“はるか”の利点はJRのネットワークにあります。関西の主要都市、京都からは乗り換えなしで関空まで行けるってことです。神戸方面から行く場合は大阪駅で環状線に乗り換えなくては行けないので、大きいスーツケースを持ち運びしてい

るときには、エスカレーターもなくて大変なのが目に浮かぶ。。。 (なで)

はるかにも車いす用の車両が1列車に1両連結されています。乗降口は一般のJRの車両と同じようなものだと感じました。つまり、それほど広く設計されていないということです。

車内の車いす専用座席は、1人用のシートを2シート縦列に配置し、それぞれのシートの横に車いすを固定するという方式が取られていました。しかし、この方式だとスペースがかなり狭く、電動車いすにはかなり努力が必要だと思われます。同じ2人分のスペースをとるならば、ラピート方式の方が車いすにとってはありがたいのですが。。。

ラピートより使い勝手がよいのが、車いすトイレでした。専用座席から自分の乗っている車いすで自由に行ける距離にあるのがうれしい。しかし、広さの面について、車両の幅にも関係していると思いますが、少し狭く感じました。(隼人)

いかがでしたか？旅行へ行くのに利用するのはもちろんですが、ちょっとしたデートスポットとしてもお勧めの関空。いろんな“日本初”が発見できそうですよ！(なで)

隼人の地元の“天下茶屋”の駅にエレベーターが設置されていた。数年前から“開かずの踏切”解消のため、南海本線の高架化が進めれていたが、その南海本線のホームにエレベーターがついていた。これも関空効果かな？しかし、エレベーターに向かうまで階段の昇り降りがあるけどね。日頃、本線をあまり利用しない隼人もこれには驚いた。(隼人)